

2019年度 傾斜的研究費（全学分）
社会連携支援（都連携研究支援・社会連携活動支援） 研究報告書

【研究費区分】：社会連携活動支援

【研究代表者所属】：人間健康科学研究科 作業療法科学域

【研究代表者氏名】：井上 薫

【研究代表者氏名フリガナ】：イノウエカオル

【研究代表者職】：准教授

【研究分担者（所属,氏名,職）】

- ・健康福祉学部，飯塚哲子，准教授
- ・健康福祉学部，神尾博代，助教
- ・システムデザイン学部，和田一義，准教授
- ・東尾久地域包括支援センター，藤田 剛
- ・西尾久地域包括支援センター，安江 淳

【研究課題名】：バーチャルリアリティ認知症シミュレータを活用した認知症教育の効果

【研究実績の概要（200字程度で記入。図，グラフ等の使用も可。）】

- ・本研究では、認知症を理解し当事者意識を涵養する目的で、地域住民に対するVR認知症体験会（以後、講習会）を本学にて開催し、その有効性を検討し、今後の住民教育への支援のあり方を検討することを目的としている。株式会社シルバーウッドのVRシステムを使用し、応募のあった地域住民に対して講習会を実施した（2019.10.26）。その結果、80名定員のところ、67名からご参加いただいた（申し込みは73名）。成果の概要は、今回の参加者は認知症に関心が高く介護経験を有する人が約半数、もう半数は関心はあるが介護経験がない人であった。ほぼすべての参加者が講習会参加により認知症に対する理解が深まった、認知症の人を助けたい、認知症の人がすみやすい街づくりに自分なりに貢献したい、と認識していることがわかった。一方で、装置装着感やVR画面に対する不快感・疲労感（重症なものではないが）の訴えもあり、装置の改良が必要と考えられた。VRは有効な学習手段であるが、その限界や不快感軽減の対策も検討する必要があると考える。成果の一部は第21回日本認知症ケア学会大会にて公表する（2020.5.30-31）。ほかの結果は精査の上、2020年度から地域包括支援センターと協力して地域住民教育プログラムへ活かしていく。

【研究成果の都民への還元あるいは東京都への政策提言】

【東京都以外への社会への提言や活動の実績】

•

【外部研究費等への応募状況】

•

【科学研究費補助金や国等の提案公募型研究費，企業からの受託研究費・共同研究費の獲得状況】

•

【出版したことによる波及効果】

•